令和６年5月31日　NO.3

学校だより

小松川第二小学校
校長　五十嵐　一嘉

学力向上の取組

副校長　佐藤 晃広

昨年度実施した全国学力･学習状況調査の結果公表資料のある問題について次のような結果が示されていました。

	正答率	無解答率
江戸川区	62.9％	22.3％
東京都	68.6％	18.0％
全国	70.2％	14.3％

【本区のこれからの課題】
問われていることを正しく理解し、自分の考えを文章にあらわすということに対し、抵抗を感じている児童が多いと考えられる。
『令和5年度全国学力･学習状況調査結果報告（小学校）江戸川区教育委員会』

令和6年度、本校の学力向上に対する取組、また公表を受けた上記のような結果を確認したことで、以前参加した『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』の著者新井紀子さんの講演会を思い出しました。講演では、児童や生徒が教科書の内容や問われていることが理解できない、学力調査等テストにおいて問われていることが理解できず白紙回答が多いという現状を具体の数値から確認する機会となりました。児童は読み進めることをあきらめてしまっているのではないかと考える講演の内容でした。

本校ではこれまでの公表結果や2030年江戸川区のSDGsビジョンを受け、児童の学力向上に努めているところです。主な取組を紹介します。

1　質の高い授業を目指した教員研修の実施
おおむねひと月に一度の校内研究会を設け、国語科と算数科の指導方法を検討し実践します。

2　放課後補習教室の実施
江戸川区教育委員会の委託事業者が行う事業に加え、本校の取組として、教育職員が本事業に参加しない児童の中から対象者を選び放課後の時間に児童の学力向上、学習習慣の確立、学習意欲の向上を図る指導を行います。

3　朝の学習　「よむ YOMU ワークシート」を使用して読み解く力を育成する（第五、六学年）
江戸川区教育委員会が取り入れた読売新聞の記事を児童が学習しやすい様式に加工した補助教材です。他の学年は読書の時間や印刷教材を用いた学習の時間としています。

児童の学力向上につながる取組に特効薬はないと考えています。特に初等教育においては、基本的生活習慣の形成と定着も学力に大きく影響すると聞きます。家庭と学校は教育におけるそれぞれの役割を果たすよう努めることが大切です。